

幼児の表現につながる音楽指導法について (その2)

伊藤 充子

Music Teaching Method in Expression of Early Childhood (Part II)

Mitsuko ITO

諸言

平成29年3月に改定・告示された幼稚園教育要領では、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として三つの柱が示されている。(1)豊かな体験を通じて感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」(2)気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力の基礎」(3)心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」と書かれている。また、第2章の表現の内容の中の(6)には、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わうとある。前報では、聴くことを中心として、幼児の音楽への関わりを通じた弾き歌い指導法について取り上げた。本報では、本学幼児保育学専攻4年開講の「音楽演習」において平成17年度から取り入れている歌唱指導法について振り返る。歌唱指導法は、「おためしライブ」として、学生が保育・教育の場への応用力・実践力に結び付けることができるように、実践してきているものである。平成20年度までの「おためしライブ」に関しては、「教員養成課程をもつ大学における音楽教育の一考察(その5)」(名古屋女子大学紀要第56号 人文・社会編 平成22年3月)の中でも概略は述べている。平成30年度を迎え再度、見直すことにより今後の音楽表現活動の指導法に生かしていきたいと考える。

歌唱指導法「おためしライブ」

本学幼児保育学専攻1年次に開講されている「保育の表現技術Ⅰ(音楽)」では、音楽の基礎的能力を習得するとともに、人前で表現する積極性を養い、保育・教育現場で役に立つ能力を培うことを目標とした。2年次に開講されている「保育の表現技術Ⅱ(音楽)」においては、1年次で習得した音楽の基礎的能力の応用力を付けると共に、人前で表現する積極性をさらに養い、保育・教育現場ですぐに役に立つ能力を培うこととした。4年次に開講されている「音楽演習」では、1年次2年次で習得した基礎的な音楽力を基にして、就職試験に対応できる力、保育・教育現場での音楽表現活動に必要な応用力と実践力を付けることを目標としている。

(2010 伊藤ら)

(1) 内容及び実践記録 (表1) について

表1 実践記録

| | 場所 | 時間 | 日程 | 内容 | 評価 | |
|---------|-------------------------|-------------------------------|---------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------|
| 平成17年前期 | 天白ML教室 | 木12:20~12:50 AB | 5/12~7/14 全8回 | 弾き歌いまたはピアノ 任意1曲 | | |
| 後期 | 天白ML教室 | 木12:20~12:50 | 10月~11月 | 弾き歌いまたはピアノ 任意1曲 | | |
| 平成18年前期 | 天白ML教室 | 木12:20~12:50 AB | 5月~7月 | 弾き歌いまたはピアノ 任意1曲 | 学生が挙手にて評価を行う(Oの数を報告) | 児教学生も参加(3人) |
| 後期 | 天白ML教室 | 木12:20~12:50 | 10月~11月 | 弾き歌い任意1曲 | 教員を中心に気づいた点を指摘する | |
| 平成19年前期 | 天白ML教室 | 木12:20~12:50 AB | 5月~7月 10~11人 | 弾き歌い任意1曲 | 学生が挙手にて評価を行う(Oの数を報告) | 児教学生も参加(3人) |
| 後期 | 天白 6号館 エントランス | 月12:20~12:50 | 10/15~12/3 全8回 10~11人 | 弾き歌い任意1曲 | 教員から簡単な総評 | |
| 平成20年前期 | 天白ML教室 | 火12:20~12:50 AB | 5月~7月 | 弾き歌い任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 改善点を書いて提出 | 児教学生も参加(7人) |
| 後期 | 天白ML教室 | 月12:20~12:50 | 10/20~12/22 | 弾き歌い任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 | |
| 平成21年前期 | 天白ML教室 | 火12:20~12:50 AB | 5/19~7/7 全7回 10~11人 | 弾き歌い任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 改善点を書いて提出 | |
| 後期 | 天白ML教室 | 月12:20~12:50 | 10/19~12/14 10人 | 弾き歌い任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 | |
| 平成22年前期 | 天白ML教室 | 月・火12:20~12:50 AB | 5/17~7/6 全15回 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 改善点を書いて提出 | |
| 後期 | 天白ML教室 | 月・火12:20~12:50 | 10/18~11/29 全12回 | 弾き歌い一人1分以上 任意1曲 | 改善点を書いて提出 | |
| 平成23年前期 | 天白ML教室 | 月12:20~12:50 AB | 5/23~7/5 全7回 10~11人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表(改訂)にて評価 改善点を書いて提出 | |
| 後期 | 天白ML教室 | 月12:20~12:50 | 10/3~11/28 全8回 10~11人 | 弾き歌い一人1分以上 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 改善点を書いて提出 | |
| 平成24年前期 | 天白ML教室 | 月・木 12:20~12:50 AB | 5/21~7/23 全19回 5~6人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 後期 | 天白ML教室 | 授業時間内 | 10/15~12/10 全9回 9~10人 | 弾き歌い1分以上 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成25年前期 | 天白ML教室 | 月・火 12:20~12:50 AB | 5/27~7/22 全19回 5~6人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 後期 | 天白ML教室 | 授業時間内 | 10/14・21・28 クラスごと | 歌唱指導一人3分(初めてのう たを教える設定で)任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成26年前期 | 天白ML教室 | 月・火 12:20~12:50 ABC | 5/12~7/22 全22回 5~6人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | 児教学生も参加(1人) |
| 後期 | 天白ML教室 | 授業時間内 | 10/13~11/10 クラスごと | 歌唱指導一人3分(初めてのう たを教える設定で)任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成27年前期 | 天白ML教室 | 月・火・金 12:15~12:50 ABC | 5/11~7/17 全32回 5~6人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 後期 | 中央館ML教室 図書館棟ML教 室 | 授業時間内 | 10/12・19・26・11/2・9 クラスごと | 歌唱指導一人3分(初めてのう たを教える設定で)任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成28年前期 | 図書館棟 ML教室 | 月・火・水・木・金 12:20~12:50 ABCD | 5/9~7/15 全44回 4~7人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 後期 | 図書館棟 ML教室 | 授業時間内 | 10/17・24・31 クラスごと | 歌唱指導一人3分(初めてのう たを教える設定で)任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成29年前期 | 図書館棟 ML教室 | 月・火・水・木・金 12:20~12:50 ABCD | 5/8~7/6 全42回 3~5人 | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 後期 | 図書館棟 ML教室 | 授業時間内 | 10/16・23・30 クラスごと | 歌唱指導一人3分(初めてのう たを教える設定で)任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |
| 平成30年前期 | 図書館棟 ML教室 | 授業時間内 ABCD | 6/11~7/16 全6回 6~13人 クラスごと | 歌唱指導 一人3分 任意1曲 | 弾き歌いチェック項目表にて評価 自己点検表提出 | |

平成17年度より「音楽演習」の授業において、前期は就職試験対策の一環として、後期は保育・教育現場を想定し、公開の場で演奏し評価を受けることを目的に、授業時間外を利用し、主にML教室にて「おためしライブ」を行っている。これは、昼休みを利用して、公開で行うことにより、人前で演奏する機会を1回でも多く経験してもらう。そして相互評価を行うことで、各自が学習課題を見つけ、次へのステップに生かし、実践力の向上を目標とするものである。筆者および授業担当（声楽）専任教員は、毎回必ず出席し、評価および一口コメントを行ってきた。担当以外の専任や非常勤も時間があるときは立ち合い、評価を行っている。平成30年度を迎え、資料のない年度もあるが、平成17年度からの14年間で今一度振り返り、考察する。

- ・平成17年度：「音楽演習」履修者は必ず、前期・後期1回ずつ任意の曲（弾き歌いあるいはピアノ）を演奏した。授業外に公開で行うことにより、人前での演奏の機会をつくるためである。
- ・平成18年度：前期は、任意の曲（弾き歌いあるいはピアノ）を演奏し、聞きに来ている学生がそのつど挙手で評価を行った。後期は、任意の弾き歌いとし、その場に来ている教員を中心に、学生一人ずつに対して気づいた点を指摘した。
- ・平成19年度：前期は、任意の弾き歌いとした。評価は、聞きに来ている学生に挙手をしてもらうことで合格とした。後期は、キーボードを用い、天白学舎6号館エントランスホールで行った。6号館の1階ということもあり、出演学生の担任教員や他学科他専攻の教員学生も見学に来ていた。教室とは違った場所での開催は、演奏する学生にとっても大きな励みになったようである。終了後、参加教員から簡単な総評を行った。
- ・平成20年度：弾き歌いチェック項目表（表2）を作成し、気づいた点を記入し、総合評価の欄も設ける。聞きに来ている学生（履修者）、教員に配布し、演奏者一人一人に対してそれぞれ1枚ずつ記入してもらう。演奏終了後、弾き歌いチェック項目表を回収し、演奏した学生に渡し、アドバイスを受けた点や改善点等を記入したものを提出させた。
- ・平成21年度：平成20年度と同様に行う。弾き歌いチェック項目表を改訂する。
- ・平成22年度：前後期ともに週2日ずつ昼休みに行く。前期は、任意の弾き歌いを用いて一人3分の歌唱指導とする。後期は、一人1分以上になるように弾き歌い（例えば、1～3番まで歌う、2曲歌う、歌唱指導を入れる）を行う。短く簡単な曲を選び1分未満の場合はやり直しをさせた。弾き歌いチェック項目表を改訂する。
- ・平成23年度：弾き歌いチェック項目表を改訂する。
- ・平成24年度：前期は週2日ずつ今まで通り、昼休みに公開で行ったが、後期は、一人1分の弾き歌いとし、各クラスの授業時間内で行った。自己点検表を作成し、アドバイスや評価に対する改善点等を記入し、提出させた（現在まで継続している）。
- ・平成25年度：前期は、その日に演奏した学生に、演奏終了後、担当教員より口頭でも、気づいた点を話すようにした。何を指導したいのか、どのように表現したいのか、表情、言葉遣い、時間配分など明らかに練習不足と見られる学生については、次週以降に何度でもやり直しをさせた（現在まで継続している）。自己点検表に選曲理由の欄を設ける。後期の課題も、一人3分の任意の曲での歌唱指導とした。卒業生からのアドバイスもあり、初めての歌を教えるという設定にした。内容に関わらず、やり直しはしない。
- ・平成26年度：3クラスとなる。前期は週2日ずつ昼休みに、後期は各クラス授業時間内で行った。内容は前年度と同じである。

- ・平成27年度：前期は週3日ずつ昼休みに行い、後期は天白学舎移転に伴い、中央館ML教室および図書館棟ML教室にて各クラス授業時間内に行った。
- ・平成28年度：4クラスになり、週5日（月火水木金）の昼休みに4～6人ずつ5月から7月にかけて44回ほど行った。後期は、各クラス授業時間内で行った。
- ・平成29年度：前期は週5日（月火水木金）の昼休みに2～6人ずつ5月から7月にかけて40回ほど行ったが、演奏者以外に見に来る学生がほとんど来なくなり、昼休みに公開で行うという意味が薄れてきた。
- ・平成30年度：平成29年度の状況を踏まえ、前期も各クラス授業時間内で行うこととした。自己点検表を見直し、設定年齢、ねらいの欄も設ける。

教員採用試験、就職試験を控えた児童教育学専攻の学生にも、先生と1対1のレッスンだけではなく、公開の場での演奏の機会を設定してあることを伝え、参加を促したところ、平成18年度前期は3人、平成19年度前期は3人、平成20年度前期は7人、平成26年度前期は1人が演奏（弾き歌い）を行った。採用試験に向けて人前で演奏する練習をしてほしいとの考えから、継続して出演募集をしていたが、残念ながら上記以外に参加希望学生は出てこなかった。

また、毎年前期は、該当学年に対しては採用試験を前提とした練習の場として、下級学年に対しては4年生の実力を見てもらう場としての考えから、公開であるので聞きにくるようにとの掲示を行ったり、音楽関連授業内で見学に来るよう促したりした。しかし年々見学者は減り、平成29年度には演奏する学生とわずかな学生しか見に来なくなってしまった。クラス内だけではない人の前で練習をすることにより、少しでも力を付けてもらいたいとの考えで行ってきたが、見学の学生があまりにも少なくなってしまったので、平成30年度前期は授業時間内で実施した。後期においては、平成24年度から授業時間内で行っている。1年の「保育の表現技術Ⅰ（音楽）」「音楽演習Ⅰ」の後期第1週目の授業で、就職試験を終えた4年生に模範演奏をしてもらう機会を設けたときもあった。4年生の真剣に取り組む姿、演奏を聴くことは、1年生にとって良い刺激になった。

平成17年度に「おためしライブ」を始めた目的は、弾き歌いの力を付けること、人前で演奏する機会を増やすこと、そしてお互いに聞きあい評価しあうことであった。最初の頃は、照れてしまったり、音が鳴っているうちから次の動作に入ったり、声が聞こえてこないなど初歩的と思われる問題が見えていた。続けていく中で、学期の初めに「おためしライブ」を行う意図・意義について、人前での演奏や態度を見直す良い機会として「おためしライブ」をとらえてほしいと、そのつど話をして実施してきた。しかし、就職試験において音楽に関する試験内容も年々変わり、弾き歌いのみではなく、子どもたちの前での歌唱指導などが課せられるようになってきた。また、保育・教育現場における応用力・実践力をつけるため、平成22年度から、一人3分の持ち時間で歌唱指導を行うことにした。曲目、設定は自由とした。前期においては、歌唱指導を行うにあたり、学生がそれぞれペープサートを用いたり、歌詞カードをつくったり、リズム遊びを入れたり、振り付けを考えたり、工夫の跡が見られるようになってきた。平成25年度からは、授業担当教員はその日の演奏終了後、一人一人に口頭によるアドバイスも行っている。3分間といえども、練習不足が明らかにわかり、安易に行う学生や、指導の工夫、表情、言葉遣いなどもう一步の学生には、納得できるまで何度もやり直しをさせるようにしている。後期に関しては、口頭でも気付いたことは指摘するが、やり直しは行わない。演奏終了後は、提出された一人一人の弾き歌いチェック項目表を基に、各自でアドバイスや評価を集計し、そ

れらに対する改善点や自分が工夫したことについて記述した自己点検表を、提出させている。

（2）弾き歌いチェック項目表（評価表）について

チェック項目表は、歌唱指導における評価用紙として用いている。聞きに来ている学生は、その日に演奏・歌唱指導する学生一人に対して1枚ずつ「弾き歌いチェック項目表」を渡し、試験官の立場で、気づいた点などを記入する。見ているだけではなく、気付いたことを記述することにより、演奏や指導の良さを言葉で表すことができる。演奏者にとっても、採点する側の学生にとっても相互に批評することを通して、対話的な学びができる。教員も、学生と同様の方法で評価を行う。

平成20年度に作成したものは、弾き歌いにおける注意点のみ簡潔に示しているが、その後、平成21年度、平成22年度、平成23年度と毎年見直しを行った。項目について改訂をすることにより、歌唱指導におけるポイントがより細かく、指導する側にも採点する側にもわかりやすくなった。総合評価として、最終的な評価基準は、採用試験の試験官の立場に立って、合格に値するか否かの判断として○か×を必ず記入する。

平成23年度版を基に、それぞれの項目の到達目標について述べる。すべての項目について、子どもの前で、あるいは子どもと一緒に歌うということをしっかり理解して指導を行わなくてはならない。

- 1 曲の流れを大切に止まったり、弾き直しをせずに歌えたか — 1、2年での弾き歌いの課題においても指導がされている。歌い始めたら、決して止まったり弾き直しをして音楽の流れを止めてはならない。
- 2 のびのびと明るい声で、子どもの前で歌うように歌えたか — 笑顔で、歌いだしの準備（呼吸、目線、口の開け方など）を考えているか。腹式呼吸、共鳴などに注意を向けているか。旋律や歌詞がはっきり分かるように歌うことができているか。
- 3 正しい音程、リズム、発音、息つきができたか — 楽譜を見直すことにより、間違えたまま歌っていないかを再確認し、保育者として子どもに正しい歌（音・リズム・言葉）を伝えているか。
- 4 歌とピアノの音量バランスは、よかったか — 子どもは保育者の歌を聞いて歌を憶えていく。声が小さくピアノ伴奏ばかり目立ってしまうと、子どもに歌が伝わりにくくなる。自分にふさわしい伴奏を付けて弾き歌いができているか。
- 5 曲想（テンポ・ニュアンス・表情など）の工夫はできているか — 曲にふさわしいテンポで歌えているか。曲想は付いているか。どのように表現したいのか。
- 6 指導力のある歌唱指導が、できたか — 導入部分、指導部分（何をどう指導したいのか）、しめくり部分を工夫しているか。時間配分はできているか。また、「大きな声で」とか「元氣よく」という言葉では、子どもは頑張りすぎて、がなるように歌ってしまう。どんな声掛けをしたらよいのか。
- 7 言葉遣い、表情はどうであったか — 保育者として、子どもにわかりやすい言葉で話しているか。子どもに対する言葉遣いはどうであるか。話したり歌っている時の表情はどうであるか。

表2 平成20年度 弾き歌いチェック項目表 (評価表)

| 平成20年度 おためしライブ | | | |
|------------------------------------|-----------------------|----|---|
| 月 | 日 | 曲目 | |
| 『弾き歌い』チェック項目 | | | よかった項目に は心 をう る 項 目 に ほ む |
| 1 | 曲の流れを大切に | | m e m o |
| 2 | のびのびと明るい声で、子供の前で歌うように | | |
| 3 | 正しい音程、リズムで | | |
| 4 | 正しい発音で、言葉を明確に | | |
| 5 | フレーズを生かした息つぎで | | |
| 6 | 歌とピアノの音量バランス | | |
| 7 | 曲想(テンポ・ニュアンス・表情など)の工夫 | | |
| 総合評価 (採用試験での試験官の立場で ○か×) | | | <input type="checkbox"/> ⇔必ず記入 |

平成21年度 チェック項目

- 1 曲の流れを大切にし、止まったり、弾き直しをしない
- 2 のびのびと明るい声で、子どもの前で歌うように
- 3 正しい音程、リズムがとれているか
- 4 正しい発音で、言葉は明確であるか
- 5 言葉やフレーズを生かして、息つぎを工夫しているか
- 6 歌とピアノの音量バランスはどうか
- 7 曲想(テンポ・ニュアンス・表情など)の工夫はできているか
- 8 指導者として、どうであったか

改訂点：言葉を足し、それぞれの項目を分かりやすくした。

：指導者としての観点を入れた。

平成22年度 チェック項目

- 1 曲の流れを大切にし、止まったり、弾き直しをせずに歌えたか
- 2 のびのびと明るい声で、子どもの前で歌うように歌えたか
- 3 正しい音程、リズム、発音、息つぎができたか
- 4 歌とピアノの音量バランスは、よかったか
- 5 曲想(テンポ・ニュアンス・表情など)の工夫はできているか
- 6 指導力のある歌唱指導が、できたか

改訂点：指導力を問うようにした。

平成23年度 チェック項目

- 1 曲の流れを大切にし、止まったり、弾き直しをせずに歌えたか
- 2 のびのびと明るい声で、子どもの前で歌うように歌えたか
- 3 正しい音程、リズム、発音、息つぎができたか
- 4 歌とピアノの音量バランスは、よかったか
- 5 曲想(テンポ・ニュアンス・表情など)の工夫はできているか

6 指導力のある歌唱指導が、できたか

7 言葉遣い、表情はどうであったか

改訂点：子どもへの言葉の使い方や指導における表情も評価の観点に加えた。

この弾き歌いチェック項目表は、演奏者にフィードバックすることにより、演奏者自身が、演奏あるいは歌唱指導の評価やアドバイスを受けた点などから、自分の学習課題を見出すことができる。

（3）自己点検表について

平成24年度から、自己点検表を作成し、工夫した点・アドバイスを受けた点・自分の課題に対する改善点などについて記入し、提出をさせている。このことは、より完成度の高い演奏・歌唱指導に結びつけるための一つの方法と考える。平成29年度からは、選曲理由の記入欄を、平成30年度からは、設定、ねらいの記入欄も加えた。改訂した理由は、歌唱指導のポイントを明確にさせること、また、就職試験での面接等で質問されることが多くなってきたことからである。

選曲に関して、曲目・設定（対象年齢、何回目の指導など）は自由である。多くの学生が、歌詞が親しみやすく分かりやすい・子どもと共に楽しんで歌える・リズム感がある・自分が自信をもって指導できるという選曲理由を挙げている。学生（平成26年度生）の記述を基に選曲理由として書かれていたものを、以下に示す。

前期（設定は自由）

- ：正確に音をとらえる第一歩として、身近な生き物からイメージを膨らませる。繰り返し練習することで歌えるようにする。
- ：お互いに助け合い、笑いあうことの大切さを子どもたちに伝えたい。
- ：一人一人の個性を大切に、みんなと仲良くしてほしい。
- ：生命を大事にする心を育む。
- ：入園や進級をしたばかりで緊張をしている子供も、楽しく歌えるように。
- ：国籍や言葉が違って仲良くしようとの思いをこめて。
- ：歌詞の中に、数字や色が入っている。
- ：卒園式で、たくさんの思い出をみんなと一緒に振り返る。
- ：物語性のある歌詞を楽しむ。
- ：日付への意識も強くなってきているので、その月にどんなことがあるのか理解する。
- ：今日一日が楽しく始まるように願いを込めて。
- ：お話のように語りかける歌詞から、素敵な世界観を感じてほしい。
- ：子どもたちの大好きなお母さんの歌を、感情をこめて歌う。
- ：歌を通して、他者の気持ちも考えることができる。
- ：子どもたちの間で手紙交換が流行っているという設定。
- ：手遊びやじゃんけんをすることで、表現を発展させていくことができる。
- ：掛け合いが楽しく、保育者と子どもが自然にやり取りができる。
- ：歌を通して、苦手と思っていることを少しでも楽しいと感じられる活動につなげる。
- ：リズムを取り入れることにより、リズム指導につなげる。

- : いろいろな動物が出てくるので、鳴き声や動きを付ける活動につなげる。
- : 日本の文化を大切にすることを育む。
- : 季節に合っている。
- : 卒園に向けて、たくさんの思い出を振り返る。
- : 自分の強みとしてアピールできる元気明さを表現でき、子どもも自分もリズムに乗りやすく、歌いやすい。
- : 小さなという言葉を実際に指導するときはどうすればよいか試してみたかった。
- : 優しい歌い方、可愛らしい歌い方を身に付けてほしい。
- : ゆったりとしたメロディを楽しむ。
- : 3拍子の曲を歌えるように。
- : 楽器に興味を持ち始め、弾く機会も出てくる。

後期 (初めての歌を歌うという設定)

- : 歌詞がシンプルで初めてでも意欲的に歌える。
- : 卒園前の子供たちと一緒に歌い、思い出を振り返っていく。
- : 歌うことの楽しさ、きれいな声で歌うことを感じられるように。
- : 園での楽しい一日が終わり、明日もみんなに会って遊びたいと思えるように。
- : 曲のイメージをつくりやすいように、手遊びを取り入れた。
- : 台風や雨の日が多い時期でも歌え、リズムの練習もできる。
- : 歌うことだけでなく、じゃんけんや手遊びを通して楽しむことができる。
- : 子どもに問いかけたり、子どもと会話をしながら歌うことができる。
- : 曲の中でテンポが変わるところが面白いと感じた。
- : 日本の美しい四季を感じる。
- : 日本の伝統や行事を感じてほしい。
- : 夏から秋にかけての葉の色の変化など自然を感じ、季節について考える。
- : お祭りや行事の多い秋にぴったりである。
- : 今まで歌ったことがない歌に挑戦した。
- : あまり知られていない歌を歌ってみる。
- : 自分が苦手である高音から低音までを、克服したいという思いから。
- : 歌を覚えた後は、絵をかいたり、製作活動につなげていく。
- : 身の回りにある音に興味を持ち、音を表現する楽しさを感じ取ってほしい。
- : 歌詞や伴奏のアレンジがたくさんできる。

おわりに

「おためしライブ」での歌唱指導は、学生が就職試験や保育・教育現場で実践・応用できる力を身につけることができるように、いろいろ改めながら継続してきた。実践することでお互いに音楽や指導法を見、感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感することができる。また、言葉や文字によるコミュニケーションを図ることにより、音楽活動・表現活動・言語活動が適切にできるような指導法を工夫していく力を付けることもできる。子どもから発せ

られる多彩な音楽表現、子どもの表現に対する思いや意図を受け止めるために必要な歌唱・器楽・音楽づくりの技能や力を身に付けることも保育者に求められる。歌唱指導においても、保育者としてまた、一人の人間として子どもたちに何を伝えたいのかという思いや意図をしっかりと持って表現することが大切になる。

今後の課題として、歌唱教材の取り上げ方にも工夫が必要と思われる。グループごとにテーマを変えて四季の歌、生き物の歌、園行事に関わる歌を取り上げたり、あるいは同じ曲を年齢ごとに指導する場合の指導法も考えられる。3分間という短い時間内での歌唱指導であるので、どうしても一方的な指導になってしまうが、実践の場では、子どもからの素朴な質問や、子どもならではの受けとめが出てきたときに、どのような対応ができるか、子どもの表現をいかに受け止めることができるかが保育者に必要な技術・力となる。あらゆる場面を想定できる力、また、音楽の基本を身に付けそれを応用できる力が育つような指導法を、考えていきたい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2017) 「幼稚園教育要領 平成29年告示」チャイルド本社
- 2) 伊藤充子・小林田鶴子・佐地多美 (2010) 「教員養成課程をもつ大学における音楽教育の一考察 (その5) pp75～86 名古屋女子大学紀要 第56号 人文・社会編
- 3) 無籐 隆 監修 (2018) 「新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現」萌文書林

